

山田泰之の市議会報告

日本共産党岩国市議会議員

海士路町2 55 7
31 2985



お読みください
日刊 月 2900
日曜版 月 800 円



3月予算議会は、2月26日から3月24日まで開会されました。一般質問には23人が登壇し質問を行いました。質問の多くは米軍再編問題、愛宕山問題、民間空港問題、福祉問題等に集中しました。

私は、介護保険の改悪問題、農業問題に関連してサル、インシシ問題の質問を行いました。要旨は左記の通りです。

介護保険制度について

要介護認定について

介護保険制度は、制度開始から10年を迎え、今年4月に介護保険を利用するために必要な要介護度の調査と認定の仕組みが変わる。

今回の見直しは、調査項目を14項目減らし、調査員が記入する「特記事項」の欄も減らし、実態が反映しないで、更に軽度判定「されるのではないかと質問しました。

答弁は「現行の認定制度は調査項目が多く、調査が煩雑になっている。一次判定の制度は変わらない」としました。

私は、全国の介護施設や専門家が指摘している事例、例えば、重度の寝たきりの為「移動」や「移乗」がされない人の場合、「全介助」ではなく「自立」と判断すること、又、洗髪の項目では頭髪がなければ「自立」に判定されることなどを示し厚生省が昨年3万件のモデル事業でも現行の約30%から新方式の18%へと大幅に低下していることを示し反論しました。

介護報酬の引き上げについて

介護現場では劣悪な労働条件ゆえに人材不足が深刻で、その改善を目的に介護報酬を3%引き上げられます。

政府が「1人2万円の値上げ」と宣伝しているが、岩国市

では3%で「2万円」の実現は可「4月からの新方式実施の凍結、認定制度全体の総合的な検証と改善」を求めました。

善や認知症ケアの充実を図る目的で、介護報酬を3%は在宅分が1.7%、施設分1.3%で介護従事者の処遇改善が行なわれたかの確認は岩国市として把握するのは困難と答弁をしました。

保険料・利用料の減免について

少ない年金で暮らしている高齢者に介護が必要になると利用料が重くのしかかり、介護の為に身を削るような生活をしたり、介護保険を使うお金がなく老老介護で耐えていたり、保険料が払えず介護がうけられない高齢者の実態を紹介し利用料の減免を求めました。

答弁は、利用料の減免はないが、災害等により著しい損害を受けた場合減免を実施、自己負担が高額にならない為の「高額介護サービス費」の支給や食費・

居住費が所得等に応じて自己負担が減額される「特定入所者介護サービス費」の制度で負担軽減を図っている。

私は、このような不備な制度は三月議会で4年に一程度しか質問に立たないN議員が岩国市における日本人の犯罪率と米軍の犯罪率を比べてどうかと質問を行いました。



議会こぼれ話し

三月議会で4年に一程度しか質問に立たないN議員が岩国市における日本人の犯罪率と米軍の犯罪率を比べてどうかと質問を行いました。

米国人を犯罪者集団のように言うものがあるが、いかなるものかと思うと意見を述べました。米軍の事件・犯罪が2倍に増えてもたいした事はないといったかったのです。

交通局の分営化 市民の足を確保

モータリゼーションの進展などにより、岩国市交通局のバスの利用者は昭和40年をピークに減少。その後職員の給与引下げを柱に様々な対策を実施するもバス離れの傾向に歯止めが掛からず、慢性的な赤字体質になっています。

今回の交通局の分営化派、岩国市交通局が100%出資(9000万円)の子会社を作り非正規職員を雇用。くるりんバス、高速バス、一部路線バス等運行させ、経営の安定と臨時職員の雇用を確保し、正社員化することで身分の安定化を図る内容になっています。

分営化後の当面の計画としては、交通局が長年培ってきた、バス事業の知識や経験を活かし、市内の乗り合い路線(一部の路線は新会社へ委託する)を運行します。

日本共産党市議団は交通手段を持たない高齢者・交通弱者の足、市民の足を守る立場で論戦しました。

サル・イノシシ 対策を求めめる

近年、サル、イノシシの生息分布の拡大、生息数の増加に伴い農家への被害が広域化し、これまでも農家は防護柵の設置やサル、イノシシの捕獲等被害防止対策を行なってきたが経費的にも又、過疎、高齢化などで根本的な対策が困難になってきており、旧町村ではイノシシはしかり、特にサル被害について、「サル知恵」に対処することが求められている。

農家ではこれらの被害で生産意欲を失う事態になっていることを紹介し、対策を求めました。

当局は、イノシシ対策として、獣害防護設置を県営中山間地域総合整備事業（山代の郷、旧玖北4町村）に18から19年度で9地区、25Km実施、20年度1地区4Km設置計画。更に県営中山間地域総合整備事業（南河内地区ほ場整備）に約9Km設置計画。又、村づくり交付金事業（周東中田地区）に19年度1地区0.6Kmを実施。20年から23年度に15Km設置計画。耕作放棄地対策事業で20年度で獣害防護柵用資材費（全額国費）5Km（受益面積13ヘクタール）を要望21年度設

置。岩国市単独の獣害防止対策補助金制度で50%（上限5万円）、19年度133件、435万円補助。耕作放棄地対策で中山間地域等直接支払い交付金事業（第2期H17～H21）85協定843ヘクタール。農地・水・環境保全向上対策（H19～H23）13組織457ヘクタールに取り組んでいると答弁しました。

再質問で私は答弁に対して一定の評価をする。しかし、旧岩国市内の通津、灘地区並びに由宇地区で対策が不十分であることを指摘し、対策を求めました。

サル対策

地域の協力が必要

当局は、獣害防止柵では対応が出来ず、過去に発信機の装着実験による動向調査も効果がなく、今後、鳥獣害防止総合対策補助事業で、「モンキー」ドッグの導入、サル等進入防止柵、忍び返し柵の導入実証の検討を考

えていると答弁しました。私は、サル対策として全国的に成果を挙げているモンキードッグの導入による成果を紹介し、岩国市として、蓮華山を中心に周東・玖珂、南河内・北河

内をモデル地域に指定して導入を求めました。当局は、地域の協力があれば検討したいと答弁いたしました。



村山談話の見直しを求める意見書を否決

提案理由は談話の中「侵略」や「国策を誤り」などの語句がある。これが歴代内閣が継承する内容か疑念がある。村山談話が公教育、歴史教育に影響するということです。

日本共産党市議団4名全員が反対討論を行ない、侵略戦争はなかったという主張を具体的事例を挙げて論破しました。意見書は賛成11、退場2、反対20で否決されました。

要求・要望実現

二鹿野外活動センター

長年、二鹿住民と山田議員が岩国市を通じて山口県にトイレの改善を求めています。昨年5月「やまぐち森林づくり推進協議会」で審議、実施することが決定され、今年3月末に完成致しました。



岩国への米軍住宅建設問題

調査内容を明らかにするよう求める

日本共産党の仁比聡平参議院議員、吉田貞好衆院中国比例候補、久米慶典県議、岩国市議団4名は14日、中国四国防衛施設局に空母艦載機移転に伴う米軍住宅建設問題について、調査内容を明らかにするよう求めました。

土地の用途については「国が米軍への提供区域」として買い取れば用途は米軍が決める。住宅を建てるなら「思いやり予算で立てる」と説明しました。

愛宕山の買取について「米軍住宅が来るなら国に売却しない」という二井知事や福田市長の説明について「そのような要請は受けていない」と否定しま

